

「松本哲男展」 概要

展覧会の概要

1 章 美術教師から日本美術院同人へ

1943年、栃木県佐野市に生まれた松本哲男は、宇都宮大学を卒業後、県立那須高校や県立今市高校で美術教師をしながら日本美術院展で活動しました。県内の自然の中を歩き回りながら描いた作品が高く評価されると、教師を辞め日本画家として独立しました。1983年には日本美術院同人となり、日本美術院の中心人物として活躍していくことになります。



松本哲男《山》1974年 ©松本育子

2 章 世界を大画面に描く

高校教師を退職した松本は、毎年のように世界各地への取材旅行を行い、その成果を作品に昇華するようになりました。中国やインドへの取材旅行を通して地球の悠久を感じた松本は、とにかく世界一大きいものを描きたいと思い立ち、アメリカのグランド・キャニオンを大画面に描きます。東北芸術工科大学教授に就任した1994年にはフランス・パリで個展を行い、注目を集めました。画家としての地位を高めながら、世界の名所を大画面に描く方法を確立しました。



松本哲男《富嶽・静》1994年 ©松本育子

3 章 日本画壇の中心として

パリでの個展を成功させると、松本は、世界三大瀑布を大画面に描いた作品を次々と発表します。また中南米やアジアの遺跡を題材とした作品も精力的に制作し、独自の地位を確立しました。2006年には東北芸術工科大学学長に就任するとともに、日本美術院の理事にも選出され、名実ともに日本美術界の中心人物となりました。残念ながら2012年に急逝してしまいましたが、松本の功績はこれからの日本画界にも大きな影響を与えていくことでしょう。



松本哲男《ティカル追想（マヤ）》2012年 ©松本育子

関連イベント

松本 育子 氏によるスペシャルギャラリー・トーク

松本哲男夫人・育子氏に哲男氏との思い出や作品について語っていただきます。

- 開催日：令和8(2026)年10月24日(土)
- 時間：14時～(1時間程度)
- 会場：栃木県立美術館企画展示室
- その他：予約不要、参加定員なし。時間までに企画展示室入口集合

担当学芸員によるギャラリー・トーク

- 開催日：令和8(2026)年11月1日(日)・12月20日(日)
- 時間：各日とも14時～(1時間程度)
- 会場：栃木県立美術館企画展示室
- その他：予約不要、参加定員なし。時間までに企画展示室入口集合

ワークショップ「1000年後に残る日本画を描く！」

午前は、^{こうぞ}楮を煮て、叩いて、漉いて和紙を作ります。午後は、漉いた和紙に天然の絵の具で絵を描きます。

- 開催日：令和8(2026)年11月28日(土)
- 時間：10時～15時(間にお昼休憩あり)
- 会場：栃木県立美術館集会室
- 講師：中村 寿生 氏(日本画家・文星芸術大学教授)
- 定員：10組(1組1～4名程度)
- 費用：材料費1,000円
- 持ち物：手拭きタオル、汚れてもよい服装、髪が長い場合はまとめられるもの、昼食(外食も可能)
- 申込み：オンラインによる事前予約制(予約開始日：10月24日(土)21時)

※各関連イベントへの参加には、当日の企画展観覧券が必要です。

図録

展覧会公式図録 3,000円（税込）

出品作品のカラー図版に加え、担当学芸員による2本の
論考など充実の内容。



開催概要

- 開催期間：令和8（2026）年10月24日（土）～12月27日（日）
- 開館時間：9時30分～17時（最終入館：16時30分）
- 休館日：月曜日（11月23日（月）は開館）、11月24日（火）
- 観覧料：一般1,250（1,000）円、大学生・高校生600（500）円、中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※10月23日（金）まで、団体料金で購入できるお得なオンライン前売り券を販売
- 主催：栃木県立美術館
- 後援：朝日新聞宇都宮総局、宇都宮コミュニティFM「ミヤラジ」、NHK宇都宮放送局、株式会社エフエム栃木、下野新聞社、東京新聞宇都宮支局、株式会社とちぎテレビ、株式会社栃木放送、毎日新聞宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

その他

- 報道機関・関係者向け内覧会の実施を予定しています。詳細については、別途お知らせします。
- 記事等で使用するための画像の提供が可能です。提供を希望される場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。
栃木県立美術館 学芸課（担当：主任 志田 康宏）
TEL：028-621-3566 E-mail：shida@art.pref.tochigi.lg.jp
- 本資料からの画像等の転用はご遠慮ください。
- 画像を使用して記事等を掲載される場合は、事前に画像及びテキストの確認ができる原稿を御提出ください。（確認には1週間程度を見込んでおります）